

令和四年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題

( 日本史学 )

次の一～八の設問から6問を選び解答せよ。但し、解答は全て縦書きとすること。

一 古代の日本における天皇号の成立について、主な学説を挙げ、それぞれの論拠について詳述せよ。

二 日本古代史に関する次の①～⑧の語句の内、五つを選び、説明せよ。

- ① 部民制
- ② 広開土王(好太王) 碑
- ③ 蔭位の制
- ④ 名例律
- ⑤ 早良親王
- ⑥ 阿衡の紛議
- ⑦ 『北山抄』
- ⑧ 刀伊の入寇

三 次の史料は「海東諸国紀」に記された「筑前州」の記事である。これを読み、設問(一)～(三)に答えよ。

著作権上の理由により、WEB公開版では、問題文より削除した。

(島原松平文庫蔵)

(一) 「海東諸国紀」を説明せよ。

(二) 史料中には、日宋貿易等において日本から輸出された産物が登場する。その産物名を記し、対外関係史上における意義について論ぜよ。

(三) 史料の七行目から末尾までを読み下し、正確に解釈せよ。

四 日本中世史に関する次の語句を説明せよ。

- ① 唯円
- ② 貫高制
- ③ 『風姿花伝』
- ④ 松浦党
- ⑤ 草戸千軒町

五 次の史料を読み、設問(一)～(三)に答えよ。なお、出題にあたり、漢字については現行通用の漢字を用い、変体仮名は現行の平仮名を用いた。また、適宜、読点を施した。

猶々、大将四郎家迄もやき、四郎迄も我等手へ討捕申候間、可御心易候、已上

二月十三日之御状拝見申候、其地相替儀無之候由珍重存候、有馬の儀、はや可有御座候間、具不申入候、去月廿七日、鍋嶋請取候二の丸の出丸、明退候に付て、仕寄迄よせ候とて、塀表へ鍋嶋人数つき申候により、我等・立花請取の三の丸、両手にて乗取申候、二の丸は鍋嶋人数はかり御座候、我等もの共は三の丸打通り、二の丸海手の方やきたて、本丸へ押詰、則、同日に本丸乗取申候、我等者共手負死人式千二百御座候、おしきもの共迄もころし候よし、不穩儀共候、可有御推慮候、本丸にちいさき出丸共御座候に、一揆共少々このり居申候半、明る廿八日に諸手より乗取申候、爰元首尾よく仕廻申候間、可御心安候、定て彼地之様子、其元にて色々取沙汰可申候、はやきおそき段は、上使御存之所に候間、不及申入候、恐惶謹言

細 越中

三月五日

忠利 (花押)

筑主水様

御報

(「筑紫主水宛細川越中守忠利書状」早稲田大学所蔵)

- (一) この史料の作成年を推定せよ。また、そのように推定した理由について記せ。
- (二) この史料の内容を解釈せよ。
- (三) この史料の歴史的意義について、自由な観点から論ぜよ。

六 日本近世史に関する次の語句を説明せよ。

- ① 大黒屋光太夫
- ② 老中奉書
- ③ 寛政異学の禁
- ④ 『聖教要録』
- ⑤ 西国筋郡代

七 次の史料を読み、設問（一）～（四）に答えよ。

著作権上の理由により，WEB公開版  
では，問題文より削除した。

- (一) 史料中において、「伊藤」が辞任することになった役職の名称を記せ。また、「伊藤」の後任が「曾禰」に決まった経緯について、史料の内容を踏まえて説明せよ。
- (二) 一〇行目「伊藤ノ談話中」から一五行目「憲法取調ニ」までの釈文を作成せよ。但し、漢字及び変体仮名は、現行通用のものに改め、適切な位置に句読点を補うこと。
- (三) 「伊藤」の「憲法取調」に関する近年の研究動向について、知る所を記せ。
- (四) 史料中の「板垣ノ国会論」について、その内容を説明せよ。また、「民選議員ノ建白」について、史料中の内容以外に知る所を記せ。

八 日本近現代史に関する次の①～⑧の語句の内、五つを選び、説明せよ。

- ① 地方名望家
- ② 共和演説事件
- ③ 南洋庁
- ④ 森戸辰男
- ⑤ 市川房枝
- ⑥ 三・一五事件
- ⑦ 選挙粛正運動
- ⑧ 平連